UNAHQ-1010

Afterglow

RE-MIX as Silky Touch by Ribbon Mic.

Eriko Shimizu
and Strings 4

1. Smoke Get's In Your Eyes 6’35”
-Jerome Kern-

2. I've Got A Crush On You 4’28”
-George Gershwin-

3. Afterglow ～残照～ 6’42”
-Eriko Shimizu-

4. Oborozukiyo 3’23”
-Teiichi Okano-

5. Someone To Light Up My Life 4’06”
-Antonio Carlos Jobim-

6. I Loves You Porgy 5’30”
-George Gershwin-

7. A Ray Of Hope 4’46”
-Eriko Shimizu-

8. Sora 4’48”
-Eriko Shimizu-

「一音の響きに重きをおくレコーディング」

沢口氏から最初にお話をいただいた時、テクニックをひけらかす様なものではなく「音魂」を というコンセプトにとても惹かれ、ソロアルバムに挑戦することになりました。オリジナルと古くから歌い継がれてきた名曲を取り上げていく中で、わたしのなかに自然と ' 光 ' というキーワードが生まれて来ました。
地球上のすべてが恩恵を受けている太陽の光をはじめ、人の心に灯る希望の光や、残照の様にもの悲しくも神秘の光、さまざまな ' 光 ' のさまを ' 音魂 ' と共に込めていったように思います。

アルバムタイトルとなった「Afterglow ～残照～」。
3 曲目の私のオリジナル曲は、15 歳の時に書いたコンチェルト「残照」のモチーフから、のちに大西洋上で Green Flash という自然現象を見た時に作った曲へと繋がっています。
沢口氏の案で、ストリングスのアレンジもさせていただき、より豊かな作品にしていただいた事にも心から感謝します。

「Afterglow」へのオマージュ　BY 長谷川教通（Norimichi Hasegawa）

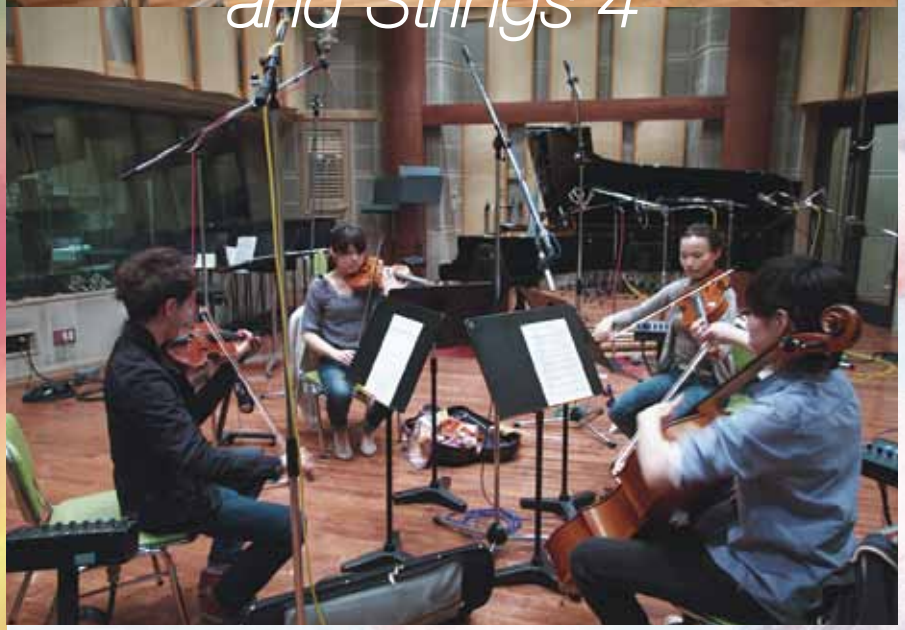
清水絵理子さんのピアノに魅入られるのは何故だろうか。
それは響きの繊細さに違いない。音楽のジャンルで分けるならジャズピアノになるが、このアルバムを聴く上でそんな枠決めはまったく必要ない。ピアノの響きに身を委ねる愉しさがあるだけだ。
「Afterglow」。日本語で言えば「残照」だろうか。
春のおぼろげな夕日、水平線に消え入るまで輝きを放つ夏の夕日、橙色の夕日がつるべ落としに沈む秋、どんよりした雲間から一条の光が差し込むように荒れた海を照らす日本海の冬の夕日。そして、かすかに光を残す明と夜が忍び寄る暗の入り交じる不思議な時間。
清水絵理子さんにも彼女だけの残照があるはずだ。
そこには思い出も希望も挫折も、喜びも悲しみも混じり合った生き様が映し出されているだろう。彼女は鍵盤の１つ１つに心を込めて響きを紡ぎ出す。その響きが描く風景に想いを馳せながら次の響きをイメージする。一つの響きが次の響きを導いて音楽を生み出していく…これこそ演奏の醍醐味。
今回のアルバムは192kHz/24ビットのハイレゾサラウンドで収録されている。サンプリング周波数192kHzといえば100kHzまで伸びた高域。24ビットの量子化なら広大なダイナミックレンジ…などと、物理的な特性ばかりに注目が集まるが、ハイレゾの本領はピアニストの指先の気配まで聴きとれる情報量にある。
ピアノはフェルトのハンマーで弦を叩いて音を発する。
だから、強靭なアタックで聴き手を圧倒することも、猛烈なスピードで指を走らせてエネルギーを発散させることもできる。でも、それだけがピアノの魅力ではない。
清水絵理子さんはデリケートなタッチと、絶妙なペダル操作で響きをコントロールし、無限の色彩を描き出す。
残念ながらCDではピアノの気配までは再現できない。
それがハイレゾだと聴こえるのだ。
しかも5chで再生すれば、リアスピーカーによる音場感が加わってすばらしい音響空間が現れる。そんなサラウンド音場を愉しめるのが、アルバムタイトルにもなっている「Afterglow」など３曲で実現した弦楽四重奏とのコラボレーションだ。弦楽四重奏がピアノとは異なるサラウンドデザインで収録されており、得も言われぬ浮遊感を描き出す。まるで残照の中でかすかに色づく雲が漂っているかのようだ。聴き手は、この浮遊感とピアノの存在感が交錯するサラウンド音場で、自らの残照に込められた風景に想いをはせることだろう。
これは録音を担当した沢口真生氏の仕掛けた匠の技。
沢口氏は録音に際して、どのようなサラウンド音場を描くのか、そのデザイン意図をはっきりと持って臨んでいる。
演奏者の演奏をありのままに記録するのが録音の基本ではあるが、さらに一歩先へ進んで演奏者と録音エンジニアによるコラボレーションの可能性もあるはず。
それは、録音エンジニアが表現の領域に足を踏み入れることに他ならない。サラウンドの新しい世界が見えてくる。

清水絵理子 / プロフィール

1973年 東京品川生まれ。祖母がピアノとエレクトーンの先生をしていた影響で、幼少の頃より楽器に親しむ。
5歳から本格的に習い始めネム音楽院にてクラシック・作曲法等学ぶ。16歳で大作曲家ショスタコーヴィッチの息子であるマキシム・ショスタコーヴィッチ指揮のもと、新日本フィルと共に自作の協奏曲を演奏。その他、国内のみならずフランス・ドイツ・ポーランド・ウィーン・イスラエル・アメリカ等海外での演奏経験も豊富に積む。その後一度音楽の道を離れるが、19歳の時にアルバイト先の店でジャズに初めて出会い、それまでとは全く違う音楽感に強く惹かれ独学と実践にて勉強を始める。

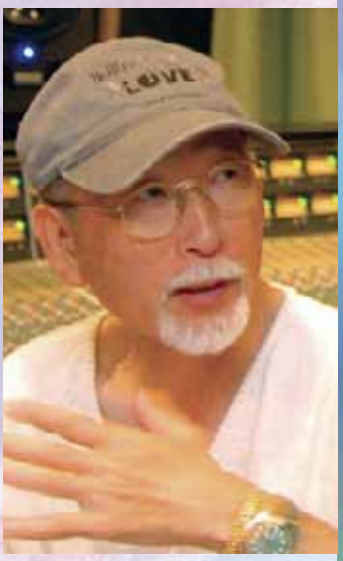
そんな中、東京はお茶の水にあるライブハウス『ＮＡＲＵ』の先代の社長、故ナル氏に「そっちもウチでピアノ弾いてみるかぁ」と声をかけてもらったことをきっかけに、毎週ピアノトリオで『ＮＡＲＵ』に出演することになる。
また、ナル氏の引き合わせにより山口真文氏のセッションに参加。以降実力派ミュージシャンとの共演を多く重ねる。
竹内直グループ・峰厚介グループに参加。
現在、年間300を超える演奏活動を通し自己の音楽を追求し続けている。
2010年 初リーダーアルバム「SORA 」をリリース。

and Strings 4



Shiori Takeda (Vn1),
Atsuki Yoshida (Vn2),
Marina Suzuki (Va),
Kazune Koshikawa (Vc)

Strings Score Rewrite:
Yohichi Tsuchiya



192-24bit サラウンド、レコーディングについて

—Mick Sawaguchi（有）沢口音楽工房 代表—

先にリリースした「Afterglow」UNAHQ-1009は、最新の技術を導入したレコーディングとしたが、本作AfterglowRe-Mixは、ピアノの録音に最新設計のリボンマイクAT-4080/4081という我々の耳で聞いている感じに近い、マイクを使用しSILKY TOUCHを意図したRE-MIX版として制作した（レコーディング マイク構成Bを使用したREMIX）。
リボンマイクは、我々の鼓膜と同じように薄いアルミ箔が振動することにより音をとらえる原理で、1950年代に設計されたビンテージマイクは，現在でも愛用されている。
しかし、近年「アクティブ.リボンマイク」といわれる新たな設計で現代版リボンマイクが登場してきた。その中でもAT-4080/81というモデルは、大変フラットで自然な特性をしているため、今回ハイレゾリューション録音に使用した。リボンマイクが、本来持っている自然な質感を是非楽しんでいただきたい。

・ピアニスト清水絵理子のタッチを活かし、立ち上がりや余韻の空間を再現。
・サラウンドの空間をこれまでの楽器の響きやホールトーンだけでなく、
　弦楽４を実音としてピアノを取り囲む空間再現をデザインした。

マスタリングでMIXを聞いた清水絵理子の言葉は、大変印象的でやはり演奏家だなあと感じたのでここで紹介したい。「私のピアノの立ち上がりがそのまま記録されているしフレーズを弾き終わった時の空間が持つ緊張感と、次にどんなフレーズを弾こうとしているかがはっきりわかる。ハイレゾは、すごい」
それはレコーディングエンジニアの弁以上に音楽をとらえた言葉であるからだ。
そして、私の良きサラウンド制作仲間2LのMortenがこれを聞いて送ってくれた感想、「Mick-san. WOW - this sounds great! I really love that the strings and the piano is warm yet brilliant and rich 」も今回の録音意図が間違いでなかったことを表しているだろう。

Ms.Eriko Shimizu gives a comment when she listen a final mix on 16th June.
“Wow, I can see my touch and finger work on piano. It very quick response! Most impressive one is that I feel an air between piano phrases, Also, I realize what phrase would be play next”

今回の録音～MIXまでのシステム：

DAW：Pyramix ver8.0
Interface：Pyramix HORUS RVENNA IP伝送
Mic Pre：RME MICESTACY 8CH MADAI-OUT
MADI伝送：RME MADI Bridge
D/A変換モニタリング：RME M-16D/A
モニターコンソール：SSL 9000J
モニターSP：TAD PRO

使用マイクロフォン：

Apf: 構成A：sanken co-100k/
　　MojaveAudio MA-301fet with VOVOX cable
　構成B：Audio technica AT-4081/AT-4080
サラウンドマイク：Audio technica AT-4050 URUSHI
弦楽４　ON Mic：Schoeps CMC 55U
　　OFF Mic：Neumann U-67s
日東紡音響　AGS拡散吸音体
MIX & Mastering : Pyramix Ver8.0/HORUS RAVENNA

UNAHQ-1010

Produced by
(有) 沢口音楽工房　Produce& Engineer by Mick Sawaguchi
Recording : ONKIOHAUS 1st Studio, 27th/29th April 2013
Recording Engineer : Mick Sawaguchi (Mick Sound Lab)
Assistant Engineer : Yuta Ohtake (ONKIOHAUS)
Mixdown / Mastering : Mick Sawaguchi (Mick Sound Lab)

Produced by
沢口音楽工房 Mick Sawaguchi

〒180ー0012 東京都武蔵野市緑町 1-2-13　TEL : 0422-53-8021（office）/ 0422-36-6252（Unamas）
URL : http://surroundterakoya.blogspot.com/ , :www.unamas.jp　E-mail : mick-sawa@m.jcnnet.jp

Photo : Mick Sawaguchi, Jacket : Midori Royama, Design : Ivy planning Inc.

個人的に使用する場合を除き、著作権法上著作者の許可無くＣＤやその他記録メディアへのコピー、
ネットワーク配信サイトやネットラジオ局等への配布は法律により禁じられています。